

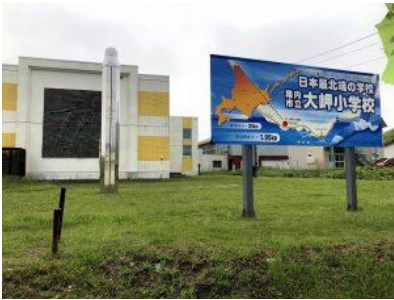
		学校周辺の写真	特色ある取組、実践等の紹介、研究会予定、URL 等
猿 払 村	浅茅野小学校		モダンなデザインの校舎、玄関ホールの掲示物には、アンネのバラ、百人一首など、へき地・複式の価値ある教育実践が語り継がれています。夏は一輪車や縄跳び、冬は 自然豊かな「王子の森」でのクロスカントリースキーで体力づくり。また、コミュニ ティスクールの機能を生かして、間伐材を薪にした「ピザ釜」や酪農地帯の資源を生かしたチーズづくり、植樹体験などの学習を通して、地域の良さを守り育てる教育活動を大切にしています。令和3年度からは、ＩＣＴを活用した学校間交流を授業に導入、また、自己肯定感を育てる様々な活動を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実践を進めています。 https://asj-sarufutsu.edumap.jp/
	浜鬼志別小学校		校区である浜鬼志別地区は、水揚げ量全国一を誇る天然ほたて貝漁の中心地であり、道の駅やキャンプ場、ホテルが置かれる「さるふつ公園」があり、村の観光・交流の 拠点となっている。 本校の児童数は、昭和30年代は100名を超えていたが（昭和33年 138 名）、その後は減少を続け、今年度は38名である。 保護者の多く（9割以上）は水産関係に従事しており、経済的に安定している家庭が多い。児童の多くがスポーツ少年団活動、ピアノやダンス、書道などの習い事をして いる。保護者は学校の教育活動に対して、おおむね協力的であり、PTA活動も活発である。一方、生活スタイルの変化や価値観の多様化などから、学校教育に対する要求も多様化してきている。
	知来別小学校		猿払村の北の端に位置し、村内では1 番古く創立114 年目を迎えます。校区は、ほたて漁と酪農が栄え4 地区113 世帯。児童数は最大200 名（昭和20 年）から減少していま すが、漁師を引き継ぎ世帯を持つ若者が増えており、現在児童 28 名となっています。学校に対する地域の関心、保護者の協力も高く、地域の方を招いての学習をはじめ、 新型コロナウイルス感染症予防の休校中には、動画授業をいち早く取り入れ、その後も行事の 動画公開やアプリでの体温記録など、改善を行っています。 今年から全複式となりましたが、重点目標「自分から動く子」の育成を目指し、読書活動、体力づくりのパワーアップタイム、基礎基本の定着「やる気ッズ」を特色とし、学力体力向上につとめています。

	目梨泊小学校		3年前に金の刀が発掘された目梨泊遺跡に近い目梨泊小学校は、児童9名、教職員4名の小規模校です。昨年度開校120周年を迎えました。地域は目梨泊漁港を中心に約40世帯あり、多くの方が漁業に従事しています。住民や保護者は、教育への関心が高く学校に対し協力的です。 今年度の重点目標は「わかった!」「できた!」「伝わった!」を実現する具体的取組の深化・充実です。帯タイムでは体力向上を目指し、一輪車、マラソン、なわとびの練習と漢字力向上のため漢字検定の取り組みを行っています。
枝幸町	岡島小学校		本校は明治32年に開設し、122年の歴史を刻んでいます。小中併置校であった時期や、100名をこえる在籍を数えたこともあります。現在は児童数8名の小規模校となっています。校舎周辺は自然環境に恵まれ、学校林の中を体力づくりで走るマラソンコースも設置されています。この環境を生かした取組により、体力づくりで北海道教育委員会より3度の表彰を受けています。 特色ある教育活動として、サケの燻製づくり、一輪車の取組、学校周辺や砂浜の清掃活動、学校農園活動、そして校舎前にはプランターで色とりどりの花苗を育てています。現在「岡小ドリル」「岡小テスト」を通じて家庭と連携し児童の学力向上を図っています。
	山臼小学校		本校の創立は、「物的財産は消えるが、教育こそ生命と共に持ち続け得る唯一の財産である」との考えから、地域住民・父母の熱意と労力奉仕によって、昭和23年に開設されました。平成30年10月には校舎全面の耐震化工事が完了、現在に至っています。 山臼小学校では、子どもたちが社会に出て働くであろう10年後を見据え、未来を切り開いていくための資質・能力の育成を目指し、山臼小学校ならではの教育課程を社会と共有しながら、小規模校の特色である児童一人一人の良さを最大限に伸ばす「個に応じた教育」を推進しています。

	風烈布小学校		風烈布小学校は「地元で学校を」との地域住民の熱心な設置運動により、1925年3月 音標尋常小学校 風烈布特別教授場として開校しました。昭和の終わりには30名を超えていた児童数も平成になって年々減少し、現在は児童数8名、教職員6名の極小規模校です。学校が地域コミュニティの拠点であると押さえ、長きにわたり地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもたちの成長を支えています。1976年に子どもたちの健やかな成長を願って発足された「風烈布子ども会育成会」から多大なるご協力をいただき、様々な体験活動を通して豊かな心を育てています。今年度は耐震工事が入り、2学期からはプレハブの仮設校舎で教育活動を行います。校舎は狭くなりますが、教職員一丸となって、子どもたちのために一層充実した教育活動を推進してまいります。
	音標小学校		本校は、1900年に寺子屋として開設され、昭和40年代には100名を超える児童数でしたが、子供の数は年々減り続け、一時は一桁まで減少しました。近年少しずつ児童数が増加し、令和3年度に乙忠部小学校との統合により28名となりました。各学年とも複数の児童が在籍し、間接指導時の学び合いが行えるようになってきました。 本校の特色ある教育活動として、酪農体験、サケ稚魚飼育・放流、漁船乗船体験など地域のゲストティーチャーから産業や自然環境について学ぶ体験学習を多く取り入れています。また、枝幸町南3小学校による集合学習を行い、より大きな集団の中で学び合う機会の充実を図っています。
幌延町	問寒別小学校		明治43年7月8日に開校し、111年目を迎える問寒別小中学校は児童12名、生徒2名、教職員14名の小中併置校です。幌延市街地から南東へ直線で約20km離れた、自然豊かな酪農地帯に本校が在ります。小規模校ならではの利点を生かしたきめ細かな学習・生活指導、小中一貫した様々な取組、ワラベンチャー問寒クラブ主催の自然体験活動など地域と連携した行事など、地域とともにある教育活動を展開しています。 また、幌延町TV会議システムを活用し、幌延小学校や幌延中学校との遠隔授業や合同授業など、集団性を高めるべく、小中連携も進めています。今年度は幌延町教育研究所教育研究大会の会場校になっており、研修にも意欲的に取り組んでいます。 https://www.town.horonobe.lg.jp/www4/toikanbetsu/

礼文町	香深井小学校		本校は、明治27年に設置許可された126年以上の歴史と伝統を有する学校です。開校以来、地域・保護者・教職員・町理事者など多くの人たちの支援と協力・協働により、地域の学校として大きく発展しました。児童は体験と課題解決を重視した総合的な学習の時間や特別活動を教科の横断的な視点をもって体験しています。また、ICTを活用した教育活動も行い、一人一人に合った学習も行っています。特色ある教育活動は、保育所から高校までの礼文型教育連携が進められ、学力面で自信とやる気を育てる「礼文検定」と、ふるさと礼文に自信と誇りが持てる「礼文学」の実践研究を町と連携し追究しています。 http://www.reikyoj.jp/kashou/
利尻町	仙法志小学校		本校は、明治26年利尻尋常小学校仙法志分校として創立し、以来127年の歴史を重ねています。昭和30年代までは300名を超える児童が在籍しましたが、昭和40年代以降は過疎化、高齢化の影響で児童数が減少し、今年度の児童数は12名、今後も児童数は10名前後で推移していく見通しです。平成29年度に「ICT活用教育促進事業」実践指定校となり、児童一人一台タブレットを初め、進んだICT環境を生かした教育活動を進めています。今年度も、ICTを活用した個別最適な学習、異年齢集団による教え合い・学び合い学習等、少人数の強みを生かした教育活動を進め、児童一人ひとりの確かな資質・能力の育成を図っています。
利尻富十町	利尻小学校		本校の創立は、明治19年（1886年）1月15日に開校し、今年で136周年目を迎えます。管内最古の教育発祥の地として優れた伝統を誇る学校です。校舎は秀峰「利尻山」の麓にあり、自然豊かな森に囲まれ、眼下には豊かな水産資源の宝庫「日本海」が広がっています。4年前に校区の鬼脇中学校と小中併置校となりました。 豊かな教育環境に恵まれた本校の小学生35人は、確かな学力を身につけるべく「アタックタイム」のほかタブレット端末を活用してAIアプリ「Qubena」を活用して個別最適化された学びも取り入れています。算数、理科、外国語は、複式から単式化し、一人一人の学習の見取りがよりできるよう取り組んでいます。また豊かな心を育む中学校との「縦割り班活動」を中核とした学校行事のほか歴史と伝統のある地域行事の取組を推進しています。

稚内市	声問小学校	 創立129年の声問小学校は、右手に日本最北端の宗谷岬、左手に稚内市街地を裾野としたノシャップ岬のほぼ中央に位置し、古くから酪農や漁業が基幹産業となっていました。近郊には北海道立宗谷ふれあい公園など観光施設もあり、毎年、多くの方がこの地に訪れています。また、北海道稚内養護学校や老人医療福祉施設なども集中し、文教・福祉の地域として発展しています。 本校においても地域の関係機関と協力しながら「声問地区ノーマライゼーション」に参加し、地域一帯となった福祉教育活動を推進しています。今年度から「SDGs」教育にも取り組み、声問から様々な発信を行っていきます。 http://koetoisyou.sakura.ne.jp
	天北小学校	 本校は平成14年に、小学校7校、中学校5校の12校を広域統廃合して新設された小中併置校である。校区は南北に20km、東西に10kmと広大で、校名はこれらの地域が「旧国鉄天北線」の沿線であったことに由来すると思われる。今年度は開校20周年を迎える。 小中併置校の特性を生かした「縦割り班活動」に力を入れ、「天北太鼓」や「天北ソーラン」「農園活動」など小中合同で取り組んでいる。また、学校の様子や地域の実態を交流し合う「地区懇談会」も各地区で開催されるなど、地域や保護者とのつながりも強い。 URL http://wakkanai-tenpokuschool.edumap.jp
	増幌小学校	 増幌小中学校は、昭和57年に旧増幌小中学校と恵北小学校が統合されてできた小中併置校です。過疎化少子化の影響で中学校では平成3年の19名、小学校では、昭和58年の35名を最高に年々児童生徒数が減少し、現在は、小学生4名、中学生5名、計9名です。 コロナ禍でも「9名だからこそできること」を追求して教育活動を推進しています。確かな学力を身につける「モーニングタイム」、体力づくりを目指した「レッツチャレンジ」、豊かな心を育む「縦割り班活動」など、小中併置校の特性を生かした活動を行っています。 http://masuhoro.edumap.jp

	宗谷小学校		全校児童20名の本校は、宗谷の海と利尻富士が一望できる絶景が広がり、裏山には観光スポット「白い道」が続く自然豊かな場所にある。昨年度から続く児童会主催の「あいさつ運動」とリンクした「自分（から）あいさつ」の意識が高まり、明るい声が校舎に響く。総合的な学習では、学校前の海にて「磯遊び」をし、採捕した魚を観察→調べ学習→学習発表につなげている。 玄関正面の大水槽「宗谷水族館」は、数種の魚や貝・ウニ・カニ等が生きた教材としても、皆の目を楽しませている。
	大岬小学校		大岬小学校は、日本最北端にある学校です。へき地3級、1、2年生が単式、3・4年生と5・6年生が複式で、全校4学級で児童数40名、教職員数9名の学校です。宗谷岬の強い風にも負けず、毎日、学びも遊びも全力で取り組んでいます。今後児童数が増加し、令和6年度には、単式校になる予定です。 50名を超える児童が学ぶ近い未来の大岬小学校、みんなで学び、みんなで育つ、日本一仲のよい学校を目指して、頑張ります！ https://oomisaki-e.edumap.jp
	富磯小学校		富磯小学校は1900年に宗谷南尋常小学校として認可を受けて開校、現校舎は平成23年1月に新築されました。今年度の児童数は12名。協力し励ましあいながら毎日元気に頑張っています。今年度の経営重点は、①学んだことが使えるように「みにつけよう」②自分やまわりのことを「みつめよう」③12人で励まし支えあい「力をあわせよう」です。7人の教職員は「できたらいいなをカタチに！」を合い言葉に、子どもの力を確かに伸ばす学びを目指して取り組んでいます。 https://wakkanai-tomiiso-e.edumap.jp/
豊岡町	兜沼小学校		本校は、児童生徒12名（小学生10名、中学生2名）教職員11名の小中併置校です。地域には兜の形をした「兜沼」があり、春には白鳥や雁など渡り鳥が数多く飛来します。また、牧草地が広がる自然豊かな酪農地帯です。地域住民や保護者は、教育への関心が高く協力的で、運動会、夏祭り、文化祭は地域を挙げて取り組みます。また、令和元年度より小規模特認校の指定を受け、広く児童生徒の受け入れをしています。 R3からは学校デジタル化も進めてきており、「少人数だからこそできる、個別最適な学びの実現」を目指して教育活動に取り組んでいます。